

令和5年度第1回厚岸町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和6年3月27日（水曜日）15時00分～16時20分

2 場 所 厚岸町役場庁舎・2階庁議室

3 出席者

（構成員）

町 長	若 狹	靖
教 育 長	滝 川	敦 善
教 育 委 員	田 辺	正 保
教 育 委 員	濱	秀 利
教 育 委 員	森 脇	直 美
教 育 委 員	成 澤	幸 恵

（事務局）

総務課

課 長	布 施	英 治
総務係長	薩 田	翔 悟

（教育委員会）

管理課長	諸 井	公
指導室長	藏 光	貴 弘
生涯学習課長補佐	車 塚	洋
生涯学習課B & G海洋センター所長	千 葉	隆 行
管理課総務係長	神	奈 緒 美

4 傍聴者 なし

5 内 容

○司会（総務課長）

私は、事務局を担当しております、総務課の布施と申します。よろしくお願ひします。

ただいまから、令和5年度第1回厚岸町総合教育会議を開催いたします。

初めに、若狹町長から御挨拶を申し上げます。

○町長

年度末を迎えまして皆様方にはそれぞれご多忙のことと存じます。そのような中、今日の総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。

また、日頃から厚岸町の教育行政につきまして深い御理解をいただいているとともに



町が介入するか、一緒にやっていけるのかという部分も難しく、これから考えていかなければならないと思っています。

#### ○議長（町長）

他に何か御意見ありますでしょうか。

#### ○教育委員会（生涯学習課B&G海洋センター所長）

皆さんおっしゃられたように、お金の問題という部分では、国や北海道では、現段階で補助金の情報がないというところがあって会費だけで賄おうとするとかなりの金額になってしまうことが計算される場所でもあります。町からの負担金もある程度決めて腹をくくっていかねばいけなくてなんだろうと思うんですけども、今おっしゃられたとおり、企業からの寄付金、あるいは今現在行っている中学校のPTA等からの寄付金や協力金のようなものがいただけないかということも、今後、話を進めていかねばならないと考えております。例えば企業版ふるさと納税や、クラウドファンディング等を活用できないのかということも研究していかねばならないと思います。まだ、国の実証事業中は財源があるという説明をされてましたが、4月からすぐ始まるというわけではないんですけども、令和8年には国のバックアップがなくなることを想定すると、それまでには財源の問題もクリアしていかねばならないと考えております。

#### ○濱委員

皆さんがおっしゃっているとおり、問題は指導者と財源だと思うんですけども、特に指導者に関しては、まだ土日の間はどうか人を確保できると思いますが、これを平日を含めて部活動が完全移行されてしまうと働いてる人は難しいのではないかと思います。通常働いている人は仕事を休んでまで部活を見れる人なんて限られるわけですから、そう考えたときにはどう考えても行政のバックアップがないと難しいのではないかと私自身は思っております。町でそのような課等を整備して指導者を募集して各町に入れるようなスタイルになっていくのではないかと考えているんです。例えば町の生涯学習課スポーツ係のような部署で朝から通常の仕事をした中で夕方4時から部活っていうのも業務の一環としていくような体制を構築できないのかなっていうのを思っまして、そのような職員を募集するとか積極的にどの競技でどのような指導者が欲しいからそういう人達を募集するような個別にピンポイントな募集をかけるようなスタイルになっていかないと自分達が思っているような指導者が集められない時代が来るのではないかと危惧しております。これは全国的に同時にやるとなると、指導者の取り合いが始まるのではないかと考えておりまして、一歩先、二歩先にある一定の競技ができる職員をいち早く集めた方が良いのではないかと思います。この後おそらく部活動が完全移行になってしまうと各自治体で特に運動部系の指導者の取り合いが発生するのではないかと考えておりますので、できれば一歩先、二歩先に土日の地域移行ができる体制が町にあるのならば、職員や指導者を町で確保する方法を考えたら良いのではないかと考えています。財源的にはどうしても保護者の負担が増え

ていってしまう可能性があるのもその点も踏まえた中で、町側のバックアップが必要になってくるのではと思っています。

#### ○議長（町長）

事務局のご意見をお願いします。

#### ○教育委員会（生涯学習課B&G海洋センター所長）

おっしゃられたとおり、指導者の確保という観点では釧路町さん辺りではスポーツ協会でNPO法人の独立した体制を構築しておりますけれども、いわゆる進んでいると言われる自治体では、スポーツ協会がスポーツインストラクターを採用して幅広く、例えば野球だけとかではなくて野球もサッカーもバスケットも教えられるような人材を確保した上で広く指導に当たっているというケースもあると聞いております。そのような指導体制が構築できると言うことが一番望ましいのかなという考えなのですが、まずもって釧路管内の同じスポーツ部局、部活動地域移行を担当しているスタッフが集まる会議等に私も参加させていただくのですが、その中で出てくる答えは、学校の先生が熱心な方で野球の指導がやりたくて先生になったんだなんていう方もいらっちゃって、私が引き続き指導したいよといってくれる人もいらっしゃるんです。ただし、学校の先生にはどうしても転勤というものがついて回るのでその先生がいなくなった後どうするかという問題が出てきてしまう。そうすると必然的に今おっしゃられたように、そのために専用に雇われた職員ではないですけど、町の職員や村の職員が指導者として受け継がれていくとか引き受けていかなければならない、役場職員、消防職員も言っておりましたけどもそのような実情になっていく可能性があるのかと思っています。

#### ○成澤委員

町長が挨拶で言われていたとおり、少子化とともにスポーツを含む部活動が減少している中でこういう動きがあるのはとても良いことだなと思って見てました。やはり人材確保が最も大変であるということで、皆さんの意見や私も考えていて思うんですけども、やはり学校の先生の中でも戸惑っているというか、参加したいけれども中学校とかで部活をまず募集してみて部員が入らなかったときにどういう対応をとってその部活がなくなるかもしれないからその後にやりたいけどどういう動きをすれば良いのかなというので迷ってる先生もいらっちゃったので、学校の先生達に対してもそういう説明とかはどのようにされているのかなというのを聞きたいです。

また、先生の転勤もあるので継続していくことの難しさと、やる気のある先生ばかりではないと思うので、どのように転じていくのかは想像つかないですけども、地域の人もあるんですが、先生方に対してはどのような感じなのかなと思っています。

#### ○議長（町長）

いかがでしょうか。

## ○教育委員会（生涯学習課B & G海洋センター所長）

教育委員会としてここまで検討協議会を6回重ねてきたと申しあげました。その検討協議会だけで打合せをしていたというわけではなくて教育委員会として、教育長を始めとして教育委員会の担当者が各学校の方にも出向いたりしたほか、先生方にも来ていただいたり、それぞれの部活動を指導している先生たちと個別にお会いをさせていただいて今の現状がどのようなものとなっているかということと、これから部活動を地域に移行させていくとした場合にどのような課題があるかという話を直接する場を全部の部活動で話しをさせていただいたところでもあります。そこでは皆さん、指導者から手を引いた後にもきちんと引き受けてくれる人はいるのかという不安ですとか、お金がかかるようになったらやらないって生徒が増えるのではないかなど、心配があるということは聞いております。この部分については課題であると認識しております。

## ○滝川教育長

この場で部活動の地域移行について取り上げていただきありがとうございます。今、色々この場でお聞きしながら私の中で整理して、まず根本的に何で厚岸町が先ほど標茶町と厚岸町が釧路管内で早めに進めてきていると申しあげましたが、案外8千人から1万人位の規模の実践例というのはほとんどないです。何も参考にするのがほとんどないんです。それから一方で色々な町村があったら一緒にこうすれば良いのではないかっていうこともあるんです。例えば道南では一緒に4つくらいの町村がまとまってやっていきましょと。では、なぜ本町は今こうやって進めているかというのと、このまま手をこまねいていたらもう部活動がなくなるとこまで来ているという状態があります。他の町村はどんどん減少して、3つか4つしかなくなっています。本町は幸い様々な部活がまだたくさんありますが、来年何もしなければもうなくなりそうな部活もあります。ですから、手をつけなければならぬってところから出発したってことが一点目です。

それから、標茶町も進んでいる自治体であります。標茶町の進め方っていうのは、まず標茶中学校をどうするのかという視点からのスタートであります。それで部活動の地域移行を進めつつ他のところを広げていくという考えであります。本町はそうではなくて、今ある少年団や大人の部活等の受け皿があることを考えると、中学校の部活を単に移行させるのではなくて、今あるものをどう生涯学習の視点で持続可能な活動にしていくのか。それこそ中学校でなんとかなっても小学校がない例えば吹奏楽部とかは、小学校がなくなったらどんどん少なくなっていくって言うのが今の現状であります。ですから、小学校もこれから作っていかなくてはならない部活だとかはもしかしたら出てくるかもしれません。そうすると中学校のみで考えてくって言うのはもう無理だと思っております。本町は小中高が今非常に厳しい状況にあって部活として成り立っていないところはたくさんあります。そこも含めて小中高そして大人になったときに今度指導者になっていくっていう形ができないだろうかということは今ずっと検討協議会の中で協議されてきたという中で今進んでいる状況であります。それから先生方に対する説明であります。これも中々先生方に届かないんですよ、それで今お渡ししてる資料は、2月29日（木曜日）の校長会で詳細に説明して校長先生

が自分の言葉で先生方に説明できるとこまで詰めて校長先生にお渡ししております。3月までには先生方に伝えてくださいと言うことでこの資料で全てこれから色々な説明をしていくんですけれども、基本的にこの資料を基にしながら説明していくということなので先生方もこの資料を初めて見たというような状況のものですから、これからこんなスケジュールで進めていくことであったり、これから少しずつ令和7年度、8年度となったらこのように進めていくということを今認識されていることです。先生方もお渡しするということはないでくださいと言うことは全部お願いしてきました。地域に移行されるまで先生方も手伝ってくださいという言い方をずっとしてきて了承を得ていますし、何よりも先生方もこの地域移行を反対する先生は誰もいませんでした。是非お願いしますと言うことなので教員や職員の力も借りながら地域移行を進めていく予定であります。そして何よりも地域の方々にきちんと理解していただきながらということを先ほどお話しされていましたが、そういうことを進めていきたいと思っております。

最後に、この理念というのは、まちづくりという視点であります。これは議会の中でもお話しさせていただいたのですけれども、単に一つの学校の一つの部活を移行するのではなくて、まちづくりとしてどうなのかということなので当然理解も必要ですし、先ほどのお金の部分についてもどのような負担にしていくのか、例えばこの会計についてもお金をどう生み出していくのかということも発想していかなければならないですし、加えて今、道教委は長崎県の方は上手くいっているのですけれども、長崎県に研修に行きながらどうやってどうやってお金を、先ほど言ったクラウドファンディングや企業版ふるさと納税はかなりうまくいっている実践例があってそれをやらないう動きもあります。また、文部科学省ではTOTOの宝くじを使って寄附を生み出していくってというような動きにもなっています。そのようにただ単に多いから集めるというだけではなくて、予算、財政についてもその組織で努力していくってことが必要なんだろうということもこれから必要になってきますので、小さい枠ではなく本当にまちづくりの中でどう財源を確保するか、指導者を確保するのかということも協力いただかなければならないと考えております。

## ○議長(町長)

以上がそれぞれのご意見があったわけですが、今後の有効な部活動ができるように教育委員会としても進めていただくようお願い申し上げますが、行政側からいたしますと、確かに現在の先生方の働き方改革の一環としてこういうものが生まれてきたということであろうかと思っておるわけですが、ただ、先ほど私が申し上げましたとおり各管内を見ましても少子化の時代を迎えております。やはり競技で言いますと個人競技、それから団体競技、仮に団体であれば野球の場合、果たしてせめて最低の9人が参加するののかという時代が私は来ると思っております。今でも来ています。陸上競技のようにですね、個人競技であれば種目は別にいたしましても一人でも参加は可能であります。特に団体競技については大変心配であると思っております。これはスポーツだけではなく文化活動、その他においてもこれから部活動の中であるわけですので、やはり部活動ももちろんありますが、義務教育の存

続に関わる校舎等を含めて大きな課題というのがのしかかってくる将来、私はそのように考えていますので、どうかはっきり言って少子化時代における部活動とすることを念頭に置きながら、さらに継続できる部活動にしていってください。寛容に考えますので、よろしく願いを申し上げたいと思います。

## ○教育委員会（管理課長）

### ■ 3 説明・協議事項「括弧 2 の厚岸翔洋高等学校地域みらい留学について」

配付資料により内容説明

## ○議長（町長）

ただいま、事務局から説明がありましたけれども、各委員の皆様から質問等がありましたらお伺いいたします。

## ○田辺委員

ただいま説明を受けましたが説明のとおりだと思います。とにかく子供の数が少なくなってきたというのは町長のおっしゃるとおりで、それによって厚岸町の場合ですと、私たちが子供の時代の10分の1以下の子供の数となっていますから、そういった中で高校のことを考えていくと深刻していく、母数が少なくなっているというように実態、それともう一つは、釧路管内全体でも子供が少なくなってきたから、いわゆる釧路校に行きたくなる、行きたいと思ったときに入りやすくなってしまっているというような状況もあるのかと思いますけれども、そういった中で地元の中学生在が地元の高校に行く率が非常に少なくなってきたというもある意味大きな課題であると私も感じています。

それで、実際に翔洋高校でやっている部分について、実は私感心していたのですがけれども、去年の豊かな海づくり大会では、翔洋高校の高校生が進行のサポートをやっているんですね、非常に素晴らしいサポート役をやっていて来場者から「高校生素晴らしいね」という声を私もたくさん聞いています。それともう一つは、マイスターハイスクールの運営委員会が先月2月に翔洋高校で開催されまして、私も出席させていただきましたが、そこには道の教育局長等が委員として参加されていましたが、そのときに、いわゆる高校生が学校で取り組んでいるドローンを活用した漁業のあり方を映像を交えながらプレゼンテーションしているのですけれども、その中身を聞いていてもかなり上手であるということを感じましたし、実際に学校で取り組んでいる授業の内容、あるいは先ほどのドローン活用の手法であるとか、これは果たして町民はどこまで知っていることなのかと思っていました。実は私も詳しいところまで実際に見るまで知らなかったのが現状であります。これはやはり地元の町民も高校生が取り組んでやっている活動をもう少しピーアールや周知して理解してもらうことが必要なのかなってというのは感じています。様々な手法があるんでしょうけれども、例えば広報誌の中で連載して取り組んでいる高校でやっていることや、色々なことに取り組んでいるという部分をピーアールするとか、何かのきっかけの中に町民の方が高校生が素晴らしい取組をしていることを理解した中で子供たちの間だけではなくて周り

から「素晴らしいことやってるよ」っていうようなことでいくと少しでも地元の子供達も行ってみよう、あるいは進学したくなる気持ちになるのではないかと実は考えています。

また、先般、翔洋高校の校長と高校生のお話をさせていただいたのですが、校長先生も「一生懸命やっている」というようなこととお話していましたし、もっと色々な機会でもっとピアールして外部からも入れていってもらえるような形をとらなきゃならないというようなお話で盛り上がっていただけなのですが、そういう意味からすると今の留学制度を活用した中で、厚岸町の魅力を伝えてきてもらうというような形がやっぱり有効であると思っています。厚岸町は色々な意味で子育て支援という形で給食費、あるいは保育園も無償化するなどの支援を行っていたり、それから高校生については、タブレットを前倒して貸与するなど、様々な取組を実施しているので、こういうことも含めて大いにピアールする必要があると感じていました。

### ○濱委員

この地域みらい留学制度で、道外の生徒や道内の他の地域から新しい生徒が入ってくることによって厚岸町から進学する生徒達にも新たな刺激が生まれるのではないかと考えています。今、何が問題かと言うと、少子化の影響により保育所から中学校までの間、同じ生徒で進級していて、各学年のクラスの数も1クラスのみも多く、クラス替えもない状況で、なおかつ、高校も同じ生徒で過ごすとなるとどうしてもやはり子供達の刺激がないということと、一度できた人間関係がずっと続くような感じがしています。ですから、新たな生徒が入ってくることでによって新たな刺激が必要だと思っています。その刺激が出ることによる高校の魅力というものもまた新たにどんどん出てくるのではないかとと思うので、積極的に町外の生徒を集める方法としてはすごく魅力的な方法ではないかと思えますし、是非とも継続して生徒を利用して翔洋高校をもっと宣伝していただきたいですし、それによって魅力がある高校だと結構地元の子供達も今までよりは進学するって言うような良い循環で回れば良いと思うので、1年だけの単年度ではなくて継続して、せっかくやる以上は、すぐ結果が出るかわからないけれども継続してこの事業を進めていただきたいと思っています。

### ○議長(町長)

その他何かございますでしょうか。教育長は何かありますか。

### ○教育長

昨年、この総合教育会議の中の議題でも翔洋高校のこと取り上げていただきました。先ほどお話されていましたが、やはり色々充実した取組はなされているところではあります。キーワードとしては、やはり中々町民に届いていないということと、教育行政としてはどのように支援していくのかという課題もありました。その一つが今回の地域みらい留学ということもやっていきたいと思います。ということで一歩大きく踏み出しました。先ほどおっしゃいましたように、人を呼ぶってこともそうなんですけれども、そこから刺激があって地元の高校、地元の中学生もそこを選んでいくという部

分で成果が出ているってことも大きい状況でありました。今回これを進めてみるという中では、是非そういうことも含めて、まず、今年やってみてということになるんですけども、ただし、あまりにも多く人が集まってくるとだんだん薄れてくることもあります。これは今まだまだ少ないのですごく際立った形にはなるかもしれません。特に水産系や調理師の免許っていうのはすごく魅力があるんですけども、もっともっと集まってくるとそれはそれでまた考えていかなければならないなということが一つの課題かなということがあります。

それともう一点、今回マイスターハイスクールの発表会に教育委員の方や皆さんも見えていただいて、本当にレベルの高い「高校生はここまでプレゼンできるんだな」というのも見させていただいて、こういうのも実は中学生にも見てもらってもいい位の内容であると思っております。それと「翔洋高校ではこんなことが学べるんだ。こういうことが高校の授業としてあるんだ」ということも知っていただいたり、その繋ぐ役もしていかなければならないなと感じました。議員さんからは「これ中学生にも見せたらいいよ」と話をいただいたものですから、そのこともこれから伝えていきたいと思えます。翔洋高校は、本町としてもとても大切な学校教育、高等教育ですので、しっかりと教育委員会は支えていく必要があると考えています

#### ○議長(町長)

最後に私からご意見申し上げたいのですが、まず実績について伺います。近くでは白糖高校がこの地域みらい留学を利用していますが、その実績、どのような効果が出ているのでしょうか。

#### ○教育委員会(管理課長)

令和5年度から白糖高校が始めたということではありますが、同校では、今2人きているという結果が出ております。ただ留学をまだしているものではなく、令和6年度に留学するのは地域みらい留学を使用して2人ということですので、まだ単年度ですから結果は2人ですけども、まだ効果と言うのは2人がきたというくらいの効果しか出てないのかなというところです。

#### ○議長(町長)

それでは、私から御意見申し上げたいと思えますが、ご承知のとおり翔洋高校の前身は2校あった潮見高校、それと水産高校が統合して新しい学校としての翔洋高校が誕生したわけでありまして。なぜそうなったかを考えてみますとやはり生徒数の関係であります。ところが、今年度の入学の翔洋高校を見ますと定数を大幅に下回っている状況であります。厚岸町における唯一の道立高校でありながら、そういう実態の中では北海道の教育委員会も先ほどのお話のとおり、これからの北海道全体の教育のあり方がどう転じていくのか、ただ翔洋高校が恵まれている点は職業科があることであります。水産関係は全道に道立高校が3校あります。そのうちのひとつが厚岸町であります。そういう面においては、何とか一つの魅力ある高校として、さらにはマイスターハイスクール、これは国の文部科学省の認定であります、3年間という期限があります。

ですから、次年度で終了でありまして、この3年間本当に素晴らしいものであります。しかし、これからのことを考えると、果たしてマイスターを正面に出すことができるのかという課題もあるわけでありまして。しかし、どこにもない若潮寮、これが先ほどの説明のとおりです。立派な寮になっているわけでございます。そういうことも一つこれからの町外から来る生徒に対するピーアールにもなるのではないかという感じになります。いずれにいたしましても、今ここで何らかの手を打たなければ結果的には廃校まで繋がってくるのではないかと大変心配であります。当然、厚岸町教育委員会が今のところ担当ではあります。道立高校でありますので、厚岸町としてもしっかりと取り組んでいかなければならない大きなこれからの高等教育のあり方であろうと考えているわけでございます。そういう意味におきまして、新年度予算におきましても先ほどから議論されております部活動の地域移行、そしてまた、今の議題となっております地域みらい留学の関係、教育委員会から要望のあった予算は全て議会に提出させていただき、議会でも承認されたところでございます。そういうことで、新たな面の色々な対策というものを講じていかなければ、私が申し上げたとおり、将来大変なことになるのではないかと考えているわけでありまして。それとやはり真龍中学校、厚岸中学校、太田中学校の卒業生が少なくなっているのも事実であります。今年地元から入ったのは結果的には総体として9対6であります。普通科は9人、海洋資源科は6人という数字が現れているわけでございます。現実に定数が40人の中で、そういうことになっているということでありまして、ただ地元には高校があるから厚岸町の生徒は翔洋高校に入れるべきであるという一方の議論も確かにあります。しかしながら、教育は自由であります。魅力ある高校にどうするべきか、それと私が常に考えておりますのは、道教委の学区制の問題があると考えております。釧路の圏域に入れる枠は、以前は枠が設けられておりましたが、厚岸出身の生徒は地元とその子供達は入らなければならないということでありましたけど、現在全く学区はありません。自由であります。そういう面において、中々地元といえどもやはり教育のことを考えると特に保護者の方々はどうのように考えているのか思うところでありまして。やはり、地元には高校があるということは承知はしてはいたしましたが、将来の子供達のことを考えればやむを得ないこともあり得るということは事実であると考えておりますが、この部分についても学区の変更、願わくば昔のように地元から釧路市内に行ける人は枠を決めていかないとほとんどの子供達が釧路の高校に行ってしまうのではないかと危惧しておりますので、特に翔洋高校をこれから存続させていくためには、皆様の知恵をお借りしながら、行政としても新たな面からその対策を講じていかなければならないと考えておりますので、本日の会議はでは良い課題が提供されたのではないかと考えております。これは私も心配しているところでありまして、心配しているけれども心配が実らないということもいえるわけでありまして、ひとつよろしくお願いを申し上げます。

#### ○議長（町長）

今日の課題については、以上でよろしいでしょうか。

それでは、本日の会議につきましては以上をもって終了とさせていただきます。あ

ありがとうございました。

○司会（総務課長）

以上をもちまして、令和5年度第1回の厚岸町総合教育会議を終了いたします。

なお、次回の総合教育会議は、協議及び事務の調整が必要となった場合に、開会することといたします。